

旧村川別荘だより



平成 21 年 4 月 22 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

4月の月例会が開催されました

4月と5月のシフトの確認を行い、いくつかの変更がありました。シフト表をご確認ください。



旧村川別荘のこれまでとこれから

① 旧村川別荘のはじまり

大正 6 年、この我孫子の地に、西洋史学者村川堅固が土地を求めたこと、これが旧村川別荘の端緒です。その後、土地を増やし、大正 10 年に母屋を、昭和 2 年に新館を建設、別荘としての歴史が始まりました。

② 旧村川別荘の危機

平成 3 年（資料は誤りです。訂正しお詫びします）、旧村川別荘の 2 代目主人として堅固から別荘を受け継いだやはり西洋史学者の村川堅太郎が、その生涯を閉じました。ご遺族は、この別荘を何とか残したいと願っていましたが、国へ税金として納めなければならなくなりました。このとき、ご遺族の願いと、保存継承のために立ち上がった市民の声にこたえ、市も保存できないかと国へ働きかけます。そして、国へ物納後、市が将来買取するという約束の下、通常更地にしなければ受け入れられないとされている物納において例外的に建物、立竹木などを現況のままとし、市が買い取るまで国からの維持管理委託を受けていくこととなりました。

③ 旧村川別荘の生まれ変わり

平成 13 年、我孫子市は、晴れて国から旧村川別荘を買い取るまでにこぎつけます。社会教育事業施設として活用していくことを国有財産売買の条件として、金額 2 億 1,900 万円で契約を締結しました。



これ以降、旧村川別荘は、我孫子の別荘文化を体現する建物、庭として一般公開され、見学者や史跡巡りのグループが訪れることとなります。

④ 旧村川別荘のいま

平成 18 年 10 月から、市民によるボランティアガイドが始まりました。これを契機に来荘者も爆発的に増加。これまで 600～900 人で推移していた年間来訪者数が、平成 18 年度には 3000 人を突破します。平成 19 年には我孫子市指定文化財第 9 号となり、その文化財的価値の高さが明らかにされました。

⑤ 旧村川別荘のこれから

平成 19 年 7 月、我孫子市では「手賀沼文化拠点整備計画」を策定しました。この計画により、手賀沼沿いに点在する多くの史跡などを保存、整備、活用し、相互に連携させることにより効果的に魅力を向上させるということが位置づけられました。これに基づいて、今年度から旧村川別荘も再整備、再活用に向けて始動し“指定文化財旧村川別荘”として邁進していきます！

●Q&A など

- ・4月からの部屋貸しは原則取り止めとなります。これまで定期利用をされていた 5 団体については、6 月末までは経過措置としてご利用可能としています。
- ・市民文化講座については、今年度は使用しますが、来年度からは旧村川別荘での市民文化講座はなくなる予定です。
- ・定期利用の 5 団体とはどの団体ですか？
→詩吟、お茶、俳句、作詞、韓国語です。
- ・経過でも触れられていますが、何年から公開されて何年から日数が増えてというあたりはいかがですか？
→平成 7 年度から国からの委託を受けて市が維持管理を開始しました。その当時、週 3 日（水・土・日）であけて、清掃・風入れ等の維持管理と見学の受け入れ、部屋を使いたいという希望には貸し出しをしていた



ということです。平成 18 年度から週 5 日（水～日）に増加、平成 19 年度から週 6 日というように拡大をしてくれています。

・いつから整備とか工事に入るのですか？

→今年度に設計を行い、来年度と再来年度の 2 箇年で工事を行う予定です。

前原古墳について

今回は、ガイドさんからご質問もいただいていますので、1月から2月にかけて発掘調査を行っていた、前原古墳についてご紹介します。



「前原」は、高野山の小字です。現在、市が進めている高野山まちづくりでは、高野山地区の都市基盤環境の向上を図るために、道路、公園水道、下水道、

隅切り、地区独特の建築のルール導入などを行っています。そのうちの公園整備（図1のあたり）にあたって、発掘調査を行ったものです。公園予定地の南西部を発掘したところ、図3のように方墳が二つあることが判明しました。かつては地ぶくれ状に高まりがあったとされます。確認の結果、およそ 15 m 四方の方墳が 2 基あり、古墳の周りの堀（周溝）から出土した土器（甕）の年代からみて 4 世紀後半（古墳時代前期）に作られたものと考えられます。

前原古墳から南西 200m には千葉県北西部地域最大の前方後円墳で、我孫子最古（4 世紀末）の古墳と評されてきた水神山古墳があります。前原古墳から出土した土器は、この水神山古墳の年代を遡り、**我孫子最古の古墳**となりそうです。水神山古墳の形態である「前方後円墳」は大和政権との深いつながりで採用された形態であると考えられています。水神山古墳以前の前原古墳は大和の力が及ぶ前に我孫子の在地豪族が作ったものと考えられることができそうです。

それではなぜこの場所に古い古墳が作られたのでしょうか？大きな理由として沼への眺望が指摘できます。前原古墳や水神山古墳に葬られた人々は手賀沼をその権力の源としており（沼での漁業・水上交通など）、自らの力を誇示するために沼を見渡す



図2

景観の地であるここに古墳を作ったのでしょ。前原古墳は発掘終了後に埋め戻して地下で保存します。その後、市民が憩う公園として整備し、2009 年秋にはオープンする予定です。

●Q&A など

・この場所は私も行って見たんですが、非常によい場所で、沼を見渡すポイントだったということがよくわかります。沼の権力を象徴するというのが実感できますので、ぜひ皆さんもいらっしゃってください。

・今回の時代を判断した材料というのは？

→方墳という古墳の形状がまず一つ。方墳は古墳時代の初めか終わりかのどちらかにか出現していないということでまず絞られます。新しい時代の方墳に見られる横穴式石室の痕跡がないことから古い時代の方の可能性が高いという判断です。また、周溝から出土している土器の年代を調べると 4 世紀半ばということです。

・2 個並んでいるのは、親子など親族的なつながりの可能性も高いということですよ。

・埴輪は？土留めに使われるような円筒埴輪もなかったのでしょうか？

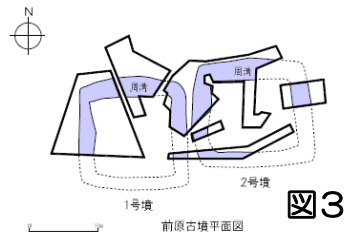


図3

→ここでは埴輪（円筒形埴輪も）は出土していません。我孫子で埴輪が出るようになるのは、5 世紀以降になります。古さの順で言うと、今回の前原古墳が 4 世紀半ば、水神山古墳が 4 世紀末、その次が 5 世紀前半の金塚古墳となりますが、ここでは埴輪も出ています。また、このころになると副葬品として武器などが出てくるようになり、金塚古墳では短甲や刀といった武器が特徴的となってくるわけです。

3月の来荘者数

平成 21 年 3 月	2363人	(推定)でした。
ちなみに平成 20 年 3 月	435人	
平成 19 年 3 月	464人	
平成 18 年 3 月	43人	

次回は・・・

平成 21 年 5 月 1 日（金）午前 9 時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。



平成 21 年 5 月 21 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：岡村、辻、工藤

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

5月の月例会が開催されました

5月と6月のシフトの確認を行い、1箇所の調整・変更がありました。

シフト表をご確認ください。

杉村楚人冠邸の謎に迫る！

今回は、今年取得したばかりほやほやの杉村邸を訪れました。楚人冠の思いが思われる白馬城の姿を、百聞は一見に如かずということで、ガイドのみなさんに見ていただきました。



楚人冠は、最初に我孫子に土地を求めるときには「島田君の別荘や嘉納治五郎先生の買はれた處などは如何にも勝れてよいが、其の他は何處もあまりかはらぬ。おまいに迷った」そうです。そうして選ばれたのが、字明田（現在緑二丁目付近）の今の杉村邸“白馬城”です。上図は、その白馬城（みなさん、ご存知でしたか？“白馬”にはなんとどぶろくという意味があるそうです。）の現況図です。この敷地は全部でおおよそ5300㎡。住宅地のオアシスが広がります。

門を入ると、楚人冠の古写真にもあるバラのアーチが出迎えます。そして、緑深き椿の森に踏み入り、アプローチ



を進むと母屋が見えてきます。玄関扉は昔ながらの引き戸、鍵も昔ながらの掛け金錠です。玄関ホールには、渡航された人の土産らしき巨大な銅鑼が壁にかかっており、母屋と澤の家との連絡に使ったとのことです。



玄関の右手は、かの有名な楚人冠のサロンです。壁に作り付けの書棚には当時の書物が一面に並んでいます。大きな書斎机とマントルピース、応接セットなども当時の様子を色濃く残しており、タイムスリップしたようです。

サロンの隣室は和室が並んでおり、こちらにも英文の掛け軸（?というか横書きのものなので額装されたものですが・・・シェイクスピアの墓碑拓本です）などと珍しくまた楚人冠テイストのきいているものがしつらえてあります。

ほかに書斎や暮らしのスペースなどはもちろんありますが、まだきちんと整理されていないので、今日はこのくらいにして・・・庭に出てみましょう。

母屋南側には、茶室と待合があります。2部屋の規模の茶室は立派なもので、こちらもきちんと修復し、公開、できれば茶会などに使えればと考えています。

母屋、茶室の西側は大きく斜面となっており、コンクリートの階段を下りていくと

池がふたつあります。こんこんと周囲から湧き出る水で豊かに湛えられています。ここから南側の排水路まで、楚人冠が作ったと思われるコンクリート製の水の道が発掘されています。コンクリートの縁に「1927」と彫られていました。



池から北上すると、澤の家が少し高くなったところに建っています。いまはだいぶ傷んで屋根も落ちている状態ですが、専門家の先生に見ていただいたところでは、これもちゃんと修復できるものだと思います。いわれほっと胸をなでおろしたところです。こちらは、楚人冠のお母様がお住まいであったところです。楚人冠が出勤のときには、きちんとここに毎朝きて、



行ってまいりますとご挨拶をされて駅に向かったというエピソードのあるところです。

たくさんの見所のある楚人冠邸、紙面ではその何分の1も御紹介できませんが、今後、整備を行い公開していきますので、どうぞお楽しみに(^^)!

連絡・意見交換

●千葉県観光ボランティアガイド連絡協議会について

- ・千葉県観光課および千葉県観光協会から、連絡協議会の設立をすとの通知がありました。
- ・これまで、県内の各団体から出されていた懸案事項については、次のような方針であるとのこと。
- ・負担金については当面徴収しないこととする。
- ・事務局機能については、千葉県観光協会に担うものとする。
- ・実際に加入していくかについてはまたみなさんに諮っていきたいと思います。

●景観散歩について(吉澤さん)

- ・春の景観散歩のご案内です。



・5月23日(土)で、まだ定員まで少し余裕がありますので、もし、関心のおありの方がいらしたらご参加ください。(発行日ではもう間に合わ

ないかと思えます。ご報告まで)

●NPO 法人 ACOBA さん作成のサイト「タウンネット」について

- ・NPO 法人 ACOBA さんから、旧村川別荘市民ガイドの活動について、我孫子の地域情報を掲載しているサイト「あびこタウンネット」に掲載しませんかとのお話がありました。
 - ・特に掲載にあたってこちらが負担しなければならないようなことはないとのこと。
 - ・ページそのものは、我孫子の市民活動などの情報を発信しているものです。
 - ・掲載してもらってよいでしょうか?→異議なし!
- タウンネット URL :

<http://www.abiko-cb.net/shop/>

●庭園公開について(吉澤さん)

- ・日立の庭園公開のお知らせです。
- ・今年はもしかしたら秋の庭園公開はなく、春のみとなるかもしれません(日立総合経営研修所の本館の改築工事が入るかもしれないとのこと)。



母屋の掛け軸と季節のつるしびな



風薫る5月、季節のつるし雛は、鷺見さんによって端午の節句にちなんだものが飾られています。

また、掛け軸をかけた

えました。「下道の湧水地蔵 合歓の花」という、季節にあったそしてハケの道沿いにある別荘にあった掛け軸です。揮毫は、児玉壽雲先生です。



4月の来荘者数

平成21年4月は584人でした。
 ちなみに平成20年4月: 280人
 平成19年4月: 3,156人
 平成18年4月: 265人

次回は・・・

平成21年6月1日(月) 午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

旧村川別荘だより



平成 21 年 6 月 10 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

6月の月例会が開催されました。

6月と7月のシフトの確認を行い、いくつかの調整・変更がありました。シフト表をご確認ください。

白樺文学館 企画展へ！その1

今回は、白樺文学の一端を勉強しようということで、白樺文学館企画展を見学しました。一部を御紹介いたします（と言っても、毎回よく考えるとかなり編集Kの関心事に偏った記事になっているような気がします・・・公平な報道(?)を心がけてはおりますが、どうぞご容赦ください)。



初夏の陽光に光る緑のハケの道を、西へ西へと歩いていきますと、数分で白樺文学館が見えてきます。最初に目に入るのは、ドーナツの食べかけ・・・

ではなく、“自帰依”というタイトルの大理石によるオブジェです。これは、文学館と志賀邸跡をつなぐもので、大きくうねって螺旋状に連なっていく人の思念、人間愛の環を表しているものとのことで、ひいては白樺派の面々の創作の泉の様子も表しているものと思います。

興味深げにみながら扉を開けて・・・おっと扉の把手もタダモノではありません。これは“メビウスの輪”です。よく見てみると、一つの面をたどっていくと、ひとまわりしたときに裏面になっているという輪ですが、裏と表をつなぐ、外と内をつなぐ、背中合わせの異質なものをつなぎ合わせるという意ですね・・・。

そして、扉を入るとそこはホールです。今度は下に注目。床面に描かれているものに気が付きましたか？人間です。入口から伸びあがるように館内方向、螺旋階段方向に大きく身を広げている人間。そして、ホールの中央あたりには、赤色のタイルがはめ込まれていて・・・これはその人間の心臓です。自帰依

でうねりをもった思念が生まれ出で、メビウスの輪を通して館に入り、そしてこの館内で大きくしなやかに伸びあがり、螺旋階段を経てその創造が昇華する・・・というようなイメージでしょうか？彫刻や建物、意匠、建築という視点からも考えが膨らむ、そんな文学館へようこそ！



・・・ということで、今回は全体の紙面構成で連絡・意見がたくさんありましたので、白樺企画展の本文については、次回に掲載させていただきたいと思います。

連絡・質疑・意見交換

●市民活動フェアの報告書

- ・報告書が届きました。押入れに収納しておくのでご覧ください。村川ガイドについて、矢野さん、山口さんが報告を出して下さっており、23ページに掲載されています。PR効果は◎！（^^）
- ・次の市民活動フェアに参加するか否かの調査も来ています。報告書も見て頂いた上で御意見を頂き、7月1日の月例会で決めたいと思います。

●ちば遺産100選ガイドブック

- ・選定された箇所についてのガイドブックが千葉県教育委員会から発刊されました。ご覧ください。

●新館奥の部屋（寝室）の今後の方向性

- ・6月で、経過措置として行っていた部屋貸しが終了となります。（(注)市民文化講座の書道は今年度いっぱい使います。本格的に部屋の配置変えを行うのはそのあとということになります。）
- ・今後、会議室ではなくなることを見据え、奥の部屋の活用方法を考えていきたいと思っております。ご意見がありましたらどうぞお寄せください。
- ・パネルのかけ方・かける場所、集めてこの部屋にしてしまうとか、そうではない

ほうが良いなどの御意見、ガイドさんがガイドしやすい配置などはどうかということなど、いかがでしょうか？

・沼の説明などはリビングで、昔の写真と見比べながらするのが非常によいので、あの写真は今のままがよいと思います。

・こちらの寝室のほうは暗いですね……。それを考えに入れるとパネル自体をただ移してしまうのはどうかなという感じがします。

→言われて思いましたが、暗さを逆手にとって活かせれば。展示物などは紫外線に晒されないほうがよいこともあり、企画展示でも常設展示としてでも、村川家からのご協力を仰いで縁の品々を展示することもよいと思いました。

・ここは寝室であったので、その当時の部屋の雰囲気を感じられるようにベッドや家具などを配置できたらよいかも。それが困難であれば、少なくとも写真を展示できれば、大変よいと思います。

・リーチの椅子、いま入り口にありますが、あれはあそこでよいのでしょうか？入り口すぐにあるとなんとなく重さがない気がしますね。

・寝室のほうに展示物を置くようにするのであれば、あのリーチの椅子は目玉だと思うので、ぜひきちんとしつらえたらよいと考えます。

・できれば、椅子のそばにリーチの紹介などの説明もあると、ガイドするときにもしやすいです。

・それに関連して、今はしまわれているようですが、人脈の説明パネルは再びかけてもよいのでは。リーチや嘉納や杉村などの紹介にも◎！

・品物ということであれば、堅固、堅太郎の著作物をそろえてきれいに並べて展示するということもよいかと思えます。



●そのほか自由な意見交換

・新館裏口外にある石積みですが、この石はどこから来たのかと、扉を開けておくとよく訊かれます。
→確認したことはありません。でも、石からしておそらく富士山麓だとは思いますが、村川家の資料にあたって確認してみます。

・堅固の家系図がわかればよいなあと思います。
→あったと思いますので、今度ご紹介します。

・管理の方のことで・・・先日（3時半過ぎ）、お客様がお部屋の中においてガイドをしていたのですが、管理の方が来て、話中なのに「今日は何人でしたか」と訊くのです。接客の心を持って対応したいと思うのですが。

・私のときにも、3時20分くらいに訊かれて戸惑いました。管理の日誌にも書く欄があるのですね。

・閉めるのに時間がかかるためと思いますが、お客様がいても3時半くらいから閉め始める。まだ母屋を覗いていない方が新館にいる間に、母屋は閉められていたということもあります。できれば、勤務時間を閉館時間とずらすなどしたほうがよいのでは。お客様がいる限りガイドは対応したいという気持ちがあります。

・ぎりぎりに来たときには、4時までですよと予め伝えるようにしています。例えば博物館などは入館時間を閉館時間よりも早く設定するけれど、村川ではそこまではということでも予め4時ですと伝えるということになったかと。今の件、私の場合では逆です。前の方は早めに閉め始めていましたが、今は4時まであけておいてくれます。

→時間のずらしは、確認、検討をしてみます。お客様への配慮という部分においては管理の方にも理解を深めてもらえるように話していきます。

・前回、杉村楚人冠邸を見せて頂いた件で、感想を。
“ライト式”という表現も使われる杉村邸ですが、それよりも当時の文化住宅の典型として和建築に洋館要素を取り入れた建築様式といったほうが正確かと思いました。また、杉村邸の価値は、建物そのものより起伏にとんだ環境豊かな敷地とその中に配される母屋、澤の家、茶室といった建物の位置や結びつき、それらに高い価値が認められると考えます。そして、遠くから見た程度ですが、台所付近は当時の文化住宅のモデルとも言えるものではないかと推察し、公開を楽しみにしています。見せて頂けてよかったです。

5月の来荘者数

平成21年5月は470人でした。
ちなみに平成20年5月： 590人
平成19年5月： 561人
平成18年5月： 74人

次回は・・・

平成21年7月1日（水）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

旧村川別荘だより



平成 21 年 7 月 13 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

7月の月例会が開催されました。

7月と8月のシフトの確認を行い、いくつかの調整・変更がありました。8月はいろいろなイベントやみなさまのご都合もあり、少し回数が増えていますが、どうぞよろしくお願いいたします。シフト表をご確認ください。



白樺文学館 企画展へ！その2

前号の続きを御紹介します。白樺文学館に入るとすぐ左側にはずらりと並ぶ、『白樺』の表紙たち！これは、1910（明治 43）年、4 月の創刊号から、関東大震災で終刊となる 1923（大正 12）年までの発行された全 160 巻の表紙です。雑誌『白樺』は、



志賀直哉をはじめとする 11 人の同人によって書かれました。表紙には、レンブラント、ルーベンス、フ

ォーゲラー、リーチなど錚々たる作家たちが顔を並べる(ちなみにこの左側のは、編集Kお気に入りのフォーゲラーの表紙)。表紙を一枚一枚

見るだけでも味わいがあり、美術館にでもいるような錯覚を覚えます。

また、となりの部屋では「雑誌白樺誕生の背景とその時代」「草創期とその仲間、学習院と白樺」などがわかりやすく紹介されています。

また、武者小路が 32 歳の誕生日に撮影されたもので、我孫子の武者小路邸で志賀や家族などと一緒に写っており、我孫子の白樺派コロニーといった感

があります。

2 階に上れば常設展が見られます。やはり！志賀直筆の暗夜行路の原稿、そして、ロダンの「鼻のつぶれた男」、武者の「仲よき事は美しき哉」あたりは見逃すことはできません。(ちなみに、この間新聞にオークションの公告が出ていて、オーギュスト・ロダンの彫刻は 1000～1500 万円の予想落札価格が付けられていました！)



最後に、地階まで降りて柳宗悦の妻、兼子夫人の芯のおった美しい歌声を聞けば、これであなたも立派な白樺文学館ファン(^ ^) 83 歳の歌声といわれて驚かない人はいないでしょう。三樹荘でもこの歌声が聞こえていたのだと想像すると、そのころの我孫子の豊かさ、うらやましく思えます。

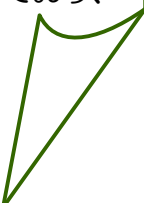
もしも、お時間が許すのであれば、1 階の部屋では、思う存分読書にふけることも可能。白樺の並ぶおしゃれな書架と、文学館の持つ静謐な空気の中で、しばし、大正文学の世界へ羽ばたいてみるのも乙なものかも・・・。



生糸工場のそのむかし

今回は昨年度、説明板をつくりました生糸工場について、御紹介します。元工場敷地だった一部分が今は区画整理事業として施行された我孫子駅南口 2 号公園（ヨーカドーの東隣の街区）となっており、説明板はそこに立っています。

時代は明治！ときまさに殖産興業・富国強兵の政策まっさかりです。この頃、





生糸は日本にとって外貨を稼ぐ重要な輸出品でした。千葉県は農業の近代化を図ろうと養蚕業を奨励し、繭の生産が拡大しました。

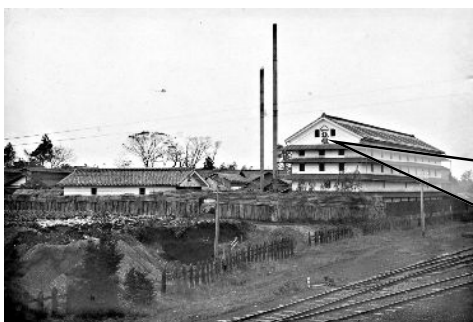
明治29(1896)年に常磐線、明治34(1901)年には成田線が開通し、我孫子は近隣の物資主産地になり、貿易港である横浜と結ばれました。

そこに目をつけた長野県岡谷市に本社を置く日本有数の製糸会社 山一林組は明治39(1906)年、我孫子駅南東に繭から生糸を作る「我孫子製糸所」を設けました。工場には蚕の繭を収める倉庫、蚕の繭をゆでる釜が200基(昭和初期には360基)、糸を作る操糸工場などが設けられ、働く女子工員の数も一番多いときで380人を数えるほどに成長しました。

我孫子に住んだ小説家 志賀直哉は小説『流行感冒』の中で、製糸工場の女子工員がインフルエンザで亡くなった、と記しています。

我孫子製糸所は旧東葛飾郡唯一の器械製糸工場で、昭和6(1931)年には千葉県下の生糸生産高の実に7割を占めるに至りました。

昭和13(1937)年、世界恐慌の余波の中、山一林組の経営は石橋商店(のち石橋製絲と改称)に移り、戦後は化学繊維の普及から生糸生産は縮



すごい!5階建ての倉庫です。「山一林組」と書かれています。

小していきませんが、我孫子製糸所は昭和60(1985)年まで生産を行っていました。

当時を偲ばせるものは蚕を飼養した「蚕霊塔」を残すのみですが、敷地跡の公園車止めは蚕の繭をイメージしたものです。機会がありましたら見てみてください。



連絡・質疑・意見交換

●今後のイベントについて

これから次のようにイベントが目白押しになります。どうぞ御協力をお願いいたします。

- ・8月29日(土) かつぱまつり
- ・8月30日(日) 夏休み親子竹細工教室 竹灯籠づくり
- ・9月12日(土)、13日(日) 竹灯籠の夕べ
- ・9月21日(日) ふれあい薪能
- ・9月26日(土)、27日(日) あびこ楽校フェスティバル
- ・10月1～4日(木～日) 日本女子オープンゴルフ選手権大会
- ・10月21日(水)～11月30日(月) なつかし道具展

●質疑

・この間訊かれたのですが、旧村川別荘の上側の子ノ神道と下側のハケの道の高低差はどのくらいでしょうか?

・多分上は20mくらい、下は5mくらいではないでしょうか?

→後ほど白図で確認し、お答えすることとしました。→確認したところ、上で19.5m、下は5.3mでした。さすが!

6月の来荘者数

平成21年6月は、285人でした。

ちなみに平成20年6月: 205人

平成19年6月: 307人

平成18年6月: 124人

次回は・・・

平成21年8月1日(土) 午前9時半
から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

旧村川別荘だより

平成21年8月18日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

- 千葉県観光ボランティアガイド連絡協議会の発足について
- ・3月の資料と先日の7月の資料をもとに経過について報告しました。
- ・負担金は当面ない、事務局は観光協会が担う、エリアごとの連絡協議会を設け役員を決めることによって全員が千葉まで会合に参加しなくてもよいよう小回りの利く組織とするなどとなっています。
- ・9月3日には設立総会を開く予定です。
- ・現在のリストにのっている状態のまま特に意思表示をしなければ、連絡協議会に所属するという扱いになるそうです。
- ・千葉県観光課と今回のベイ・東葛飾エリアの会では、まだ最終的にどうするかを意思表示していないということを伝えていきます。(ご意見など)
- ・私たちの団体は単純に市民によるボランティア団体というのでは違うので、こういう団体でも所属しておいてよい組織なのかによってだと思えます。よければ、研修とか情報共有とかメリットは受けておいて別に問題はないと思います。
- そのことがきがかかりで、会合でも何度かその点を確認しているのですが、ボランティアガイドとして活動を行っているということであれば所属することに問題はないということでした。また逆に組織の活性化のためにもぜひ参加はしてほしいという考えでした。
- 参加に異議はなく、このまま登録という形で進めていきたいと思えます。
- ふれあい薪能について(西村さん)
- ・チラシを配布しました。
- ・ふれあい薪能は我孫子では初めてですが、守谷、流山など近隣市町村でこれまでに6回開かれており、今度が第7回になります。

☆下は前に実施したときの舞台全景です☆



- 9月の来訪団体について(近藤さん)
- ・9月16日(水)に団体で利用されるという方が先日下見にいらっしゃいました。
- ・鎌ヶ谷市東部シニアの会で40名、11時から13時まで見学と昼食ということでした。
- ・生涯学習課に許可をとっているという旨をお話されていました。文化・スポーツ課では把握されていますか?
- 鎌ヶ谷市の長寿大学のような講座の授業だそうです。当日は我孫子市の生涯学習課の事業として予約が入っています。当日シフトの梅津さん、佐久間さんにはお手をかけますが、どうぞよろしくお願いいたします。
- 「白樺派の愛した美術」(荒井さん)
- ・新聞の切抜きをいただきました。
- ・「白樺派の愛した美術」が宇都宮美術館で開催されています。
- ・『白樺』創刊100年を記念して、誌上で紹介されたセザンヌやロダン、梅原龍三郎らの作品を展示しているとのこと。
- ・9月6日まで。



☆右は劉生の自画像(参考:これが展示されているかはわかりません。)☆

7月の来荘者数

平成21年7月は、221人でした。
 ちなみに平成20年7月: 308人
 平成19年7月: 244人
 平成18年7月: 97人

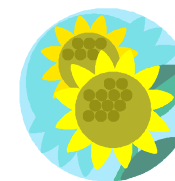
次回は・・・

平成21年9月1日(火)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

掲載記事募集中!
 この村川だよりに掲載したいことなどありましたら、ぜひ編集Kまでお知らせください!
 随時受付中ですので、どうぞお気軽にお寄せください。お待ちしております。

8月の月例会が開催されました

8月と9月のシフトの確認を行い、いくつかの調整・変更がありました。シフト表をご確認ください。ちなみに、7月にはどうしても調整のつかないコマがあり、OG竹井さんに快くお引き受けいただきました。ありがとうございました!



我孫子カントリー倶楽部と近衛文麿



近衛文麿に関する書籍が出版されたり、彼の行ったことに対する再評価がなされたりして、戦後60年を過ぎた今、改めて近衛文麿の名を目にすることも多いような気がします。今日はその近衛文麿の別荘をゴルフクラブと関連づけて、新たに判明したことを加えながら御紹介させていただきます。

近衛文麿は、明治24(1891)年、近衛家(五摂関家のひとつ)の長男として生まれます。そして、内閣総理大臣に3回なり、御存じの通り昭和20(1945)年に戦争責任を問われる状況に追い込まれ、荻窪の別荘“荻外荘”で青酸カリによる服毒自殺を図り、その生涯を閉じました。荻外荘は、別宅といっても晩年ほとんどそちらを住まいとしていたこともあり、接待や会合の場としてもそちらを活用していたことはあまりにも有名です。

一方、近衛は、我孫子にも別荘を持っています。それがこの我孫子の天王台南地区の近隣センターこもれび(宝津窪)の敷地周辺という

ことになります。土地台帳によりますと、面積が2反9畝23歩。これは坪に直すと、1反=10畝、1畝=30歩、1歩=1坪ということで計算すると、893坪にもなります。そして、1坪≒3.3㎡で換算すると2946.9㎡です!現在の1宅地がたとえば150㎡とすれば、ざっと20軒分です。

そして、土地の所有権を得ているのは、昭和6年、このとき近衛は41歳、貴族院の副議長の時でのあと貴族院議長になる、そんな仕事にも精力的な油ののった年のころです。



残念ながら、この我孫子の別荘がどのような建物だったのかはわかっていませんが、別荘があったことは確かなようです。『我孫子市史研究第1号』には小熊勝夫氏の記した「昭和四・五年頃の我孫子」という記事があり、次のような紹介があります。「滝前の裏山の広い松林を切り展いて我孫子ゴルフ場が作られた。山小屋風の木造ハウスが珍しかった。ゴルフ場が完成すると近くに近衛文麿の山荘が出来たが間もなくして火災で消失(ママ)してしまった。」

これを以前にもみなさんに御紹介したことがあったかと思いますが、編集Kとしては、残念ながら数年も経たずに焼けてしまったのだ、でも、



☆上は村川家に保存されている当時の別荘(手賀湖畔としか書かれていない)の絵葉書です☆

なぜその後もずっと土地を所有していたのかなあ(土地台帳によると)・・・と首をひねっていたのです。

ところが、先日この謎が解けました。杉村楚人冠の昭和15年1月3日の日記に、だれそれが来訪し「ゴルフの方の肥料のこと、近衛別荘の火事のことなど語る」と書かれているではありませんか。少なくとも、3日か又は前夜や前日あたりに火災が起こったことがわかりました。

台帳をもう一度見てみると確かに。次の所有権移転は昭和15年10月23日です。年初めに焼けてしまい、その年のうちには土地も処分したのだと腑に落ちました。また、この昭和15年というのは、文麿と一緒にゴルフを楽しんだ長男の文隆(ゴルフはプロ級の腕前であったとか)が入営、渡満した年でもあり、社会情勢も厳しくなってきたときでもあります。そして、この年、近衛は2回目の内閣総理大臣



を務めることとなったのです。話題をゴルフ場のほうに移します。昭和5年、株式会社我孫子カンツリー倶楽部が設立されます。『我孫子ゴルフ倶楽部50年史』には、大変貴重な資料が掲載されており、今回も参考にさせていただいています。図書館にもあるようなので、関心をお持ちの方はぜひ御覧になってみてください。

我孫子カンツリー倶楽部は、当時、貴族的で一般民衆からは参加しにくいイメージがあるゴルフというスポーツは、すばらしいスポーツであって、一般民衆も気軽に参加できる理想的な家族的なゴルフリンクスとして作りたい、そういう趣旨で設立されています。

この趣意書のなかで目を引くのは、「風光」という項目の著述、大変な名文です。「本倶楽部の地域は東南に向って傾斜をなし、幽雅なる手賀沼の水を隔てて対岸一帯清蒼なる松林を望み、西方は樹林を掠めて富士の霊峰を見、又近く筑波の麗姿に接す、かくの如き風光絶佳の高台なれば四季を通じ保健上適当なる地たることを疑はず。」



☆上は、ゴルフをする楚人冠です☆

この倶楽部の設立の経緯について染谷町長が書いていますが、この方は開成中学を出て28歳で町会議員、32歳で町長に推された非常に優秀な方で

あったそうです。「若輩にして責任の衝に立ったので・・・」なんとか町の発展策をと奔走します。様々な策が失敗し困っていたときに、杉村からゴルフ場を計画してみたらどうかと提案されます。杉村を通じて建設の原動力となる加藤良とタッグを組み、ゴルフ場計画が実現をみたのです。

この本には、当時の会員名簿やハンディキャップ表も出ています。近衛文麿は、昭和12年のハンディキャップ表で「11」と出ています。会員名簿には、前述の子息文隆と並んで書かれているのも見られます。我孫子でゴルフを楽しんだ近衛親子ですが、そののち文隆が満州で抑留されたまま亡くなったこと、文麿も戦争責任を問われることとなり自害したことを思うと、この時代の激動が改めて感じられました。

我孫子カンツリー倶楽部も戦時中には、農地開拓されるなど歴史の波をかぶりますが、時代の流れで、昭和29年には社団法人我孫子ゴルフ倶楽部として生まれ変わり、現在でも由緒あるゴルフ場として、ゴルファーからは一目置かれる存在となっています。

なお、資料は地図のコピーなどが含まれているので、ご自分用の資料以外としての使用はできません。もし、ご不要の場合には文化・スポーツ課までご返却ください！

連絡・質疑・意見交換



- 市民活動フェア2010について(山口さん)
- ・参加するか否かについて、また、参加の場合にはその参加の体制と参加費についてどうするか。
- ・昨年の参加の内容について、連絡役をしてくださった矢野さんと山口さんとで1枚に簡潔にまとめてくれたものをお配りし、撮影されたフェアの様子を踏まえて、意見交換を行いました。



- 結論としては、効果があるものと思われるので参加はしたほうがよいという意見が大勢を占め、参加することとなりました。
- ・その参加体制については、前回経験者を含んだほうがよい、新たな連絡役としてもう少し人数を補強したほうがよいなどの意見があり、前回の矢野さん、山口さんに加えて、瀬戸さん、そしてイベント企画やその作業などに小沢さんもプロジェクトメンバーとして加わるということで、総勢4名が中心となり進めていくということになりました。
- ・参加費500円については、フェアのことだけでなく組織として会費を集めたほうがよい、いや教育委員会の募集に応募した個人ボランティアであって会費を集めるのは趣旨に反する、それほど大きな問題としてではなくフェアの参加費は有志が出したい金額を出す形で募金的に集めればよい、出すことに異議はないが支出することの筋を通してもらいたいなどの意見が出され、今回のフェアについては個別的に取り扱うこととし有志が出したい金額を募金的に出すこととなりました。

旧村川別荘だより



平成 21 年 9 月 17 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

9月の月例会が開催されました。

9月と10月のシフトの確認を行い、いくつかの調整・変更がありました。どうぞよろしくお願いいたします。シフト表をご確認ください。

日立経営研修所 そのむかし



日立総合経営研修所。庭園公開や小学生向け理科実験学習など、地元の生涯学習教育にも熱心に取り組んでいらっしやいます。今回は、この研修所のいま、そして、むかしへ遡り、その歴史を紐解いてみたいと思います。

まず“現在”から。言わずもがなの日立総合経営研修所です。面積は、およそ 48,000 m²。ここは、1961 (昭和 36) 年に、株式会社日立製作所の創業 50 周年事業として設立されました。当時の社長倉田主税氏が尽力され、日本初のコーポレートユニバーシティとして、また、先進的な経営者教育の実践ということなど、新聞などでも大きく報道されています。そのデラックスな設備も話題で、「ホテルそこのけのデラックス設備」とか「エアコン付きの個室、ゴルフ練習場付き」！さらには「別世界」といった表現で紹介されたそうです。もともと日立グループの重役、部長レベルの研修所として整備され、我孫子の研修所に来ることができたら“出世”“エリート”で、一つのステイタスとなっていたようです。

細い公道を挟んで敷地の西側半分は、研修所では“みどり”と呼んでいます。時をさらに遡りますが・・・研修所となる前、ここは料亭旅館みどりでした。土地台帳によると、1950 (昭和 25)



年から 1961 (昭和 36) 年まで、築地の料亭とんぼが経営する料亭旅館であったことが読み取れます。今から 3 年ほど前



には、まだ敷地内に鴨・鶴・鳩などの研修所となる以前からの料亭時代あるいはそれ以前からの建物が残っており、日立の職員などが使っていた時代がありました。特に入り口近くのほうの鳩は、入り口は一面ガラス張りのサンルーム風アプローチで、中に入ると白壁のアーチのついた扉の枠がお客様を迎える (居室は和室) 和洋折衷のしゃれた建物でした。今でも沼べりに残るほととぎすは、料亭旅館だったころには泊り客のための離れとして使われていたものです。料亭時代には、吉谷信子がここで小説を書いたとか、棋士呉清源が名勝負を披露したとか、興味深いエピソードが伝えられています。特筆すべきは水原秋桜子で、手賀沼近辺はお気に入りだったらしく 50 回以上も吟行にきており、1957 (昭和 32) 年 5 月に行われた馬酔木 400 号記念大会ではみどりに泊まっていて、我孫子に関わる句もたくさん詠んでいます。「沼つづく方へ夜蛙の田もつづく」「木兎鳴くや竹の落ち葉に竹の雨」「芍薬の珠解く風に逍遙す」・・・などなど素敵な句の枚挙には暇がありません。秋桜子は昭和初期から手賀沼へ良く来ていたようで、特に川村蜻山とは親交が深かったようです。昭和 13 年の三樹荘での句に「鶉さけひ轆轤に陶土

がまはるまはる」とか昭和 15 年「三つ立てる椎のひとつに月隠る」などが編集 K のお気に入り・・・また、昭和 30 年には杉村邸でも詠んでいます。「佳き椿燦々かぞふ二百株」

200株もあったかどうかは別としても、それくらい椿屋敷であったことがこの句からもうかがえますね。

さて、さらに時を遡り土地台帳を見ていくと、料亭のみどりの前は大正15年から昭和25年まで大谷登氏（またはその関係）の所有でした。大谷登氏は東京高商（現一橋大学）を卒業し、日本郵船に入社、第7代社長を務めた実業家です。その後、社長になったのは昭和10年なので、別荘を持ったときは重役くらいだったでしょうか。ほととぎすを母屋として使っていたようです。

さらにさらに大昔へ・・・最後は遺跡のお話で締めたいと思います。当該地の東側は西大久保遺跡という遺跡の範囲になります。現在ではほとんど滅失していると思いますが、かなり前の書籍で円墳2基という記録が見られます。それから、西側は、西大久保古墳群という遺跡の範囲になります。こちらは、現在でも目視で確認できる古墳が観月亭の脇にありますね。未調査なので、時代や副葬品などまだまだ楽しい遺跡です。

いずれにしても、これらの歴史の物語ることは、時代を問わずこの地が魅力的な地であったこと！歴史的痕跡がこれだけあるということに改めてうれしくなりました。

なお、資料は地図のコピーなどが含まれているので、**ご自分用の資料以外としての使用はできません。**もし、ご不要の場合には文化・スポーツ課までご返却ください。

連絡・質疑・意見交換

●市民活動フェア2010について

- ・資料に沿って8月8日に開かれた実行委員会の報告がなされました。9月30日までに企画内容等のシートを提出することとなり、内容については概ね昨年どおりで作成しています。
- ・ご意見、提案などありましたら、プロジェクトメンバーまで！

●竹灯籠の夕べについて

- ・夏休み親子竹細工教室～竹灯籠づくり～はつつがなく行われました。

- ・全部で51名19組、大人23名子ども28名の参加でした。力作がたくさんできあがりました。



- ・現在別荘に飾ってあるのはそのときのもので、このまま置いておいて竹灯籠の夕べで飾ります。あと、当日お持ち帰りになった方も、竹灯籠の夕べには持ってきて飾るという方が10人前後いらっしゃいます。
- ・この室内用竹灯籠の作り方と材料、道具を新館に置いておきますので、ガイドシフトのときに余裕がありましたら作ってみてください。
- ・竹灯籠の夕べについては、資料の通り、例年通りの進行を考えています。
- ・12日、13日にお手伝いいただける方、ぜひ御協力をお願いいたします。文化・スポーツ課までご連絡ください。

→12日①矢野さん、梅津さん、瀬戸さん②矢野さん、菊池さん、西村さん③菊池さん、梅津さん、石川さんにお申し出いただききました！13日①近藤さん②川端さん、近藤さん③瀬戸さんにお申し出いただきました！

●観光ボランティアガイド全国大会について

- ・11月19日（木）～20日（金）の二日間に亘り、奈良県奈良市で開催、参加費は5,000円。
- ・申し込み締め切りは10月9日になります。
- ・月例会で資料を回覧していますが、ご興味をお持ちの方、お申し込みされたいという方は、文化・スポーツ課までご連絡ください。

8月の来荘者数

平成21年8月、144人でした。

ちなみに平成20年8月：198人

平成19年8月：279人

平成18年8月：35人

次回は・・・

平成21年10月1日（木）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

旧村川別荘だより

平成21年9月29日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：岡村、辻、工藤

〒270-1166

我孫子市我孫子1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

竹灯籠のタベが開催されました！！



△海老原修氏撮影

今年は、二日間とも開催できました。3回目となる旧村川別荘の竹灯籠のタベ・・・大変多くのお客様に足を運んでいただきました。本当にありがとうございました。

* * * *

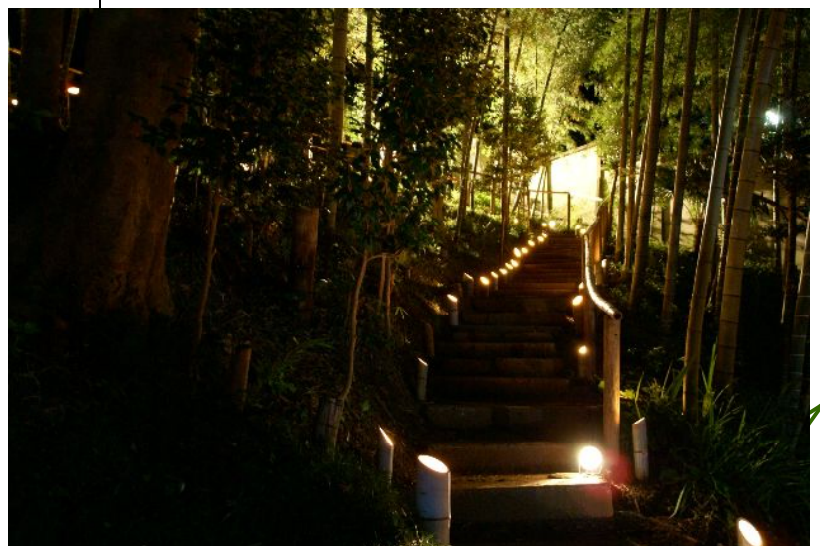
金曜日の夜、土曜日の天気予報は午後から弱い雨。実施時間のみ曇りの危うい天気予報。それでもなるべく実施したいとの気持ちから、明日の午後3時に決定をすることにして、電話の録音メッセージは祈るように「現在のところ実施予定です」と入れました。

土曜日、朝から雨です。しかもどしゃぶり。空を見上げてため息ばかり。ところが午後になったら、雨はやみ空は明るくなってきました。実施を決定！

午後3時から準備開始です。今年は、昨年の教訓を活かして、どこの方向から見ても斜面の灯籠がきれいに見えるように灯籠の向きを一方に偏らないように気をつけながらの設置です。そして、石段には、足元の暗がりを少しでも解消させようと、よりきめ細かく配置しました。

いよいよ6時。薄暮の村川に500の灯りがともりました。竹林の中に見え隠れする数え切れないほどの灯り。なんだか新たな命が吹き込まれ、別荘に新しい時間が流れ出したようにも思えます。そして、お待ちかねのコカリナが奏でられ始めると、いらした方々は母屋の前庭に大集合！歩く隙間もありません。少し物悲しげな、けれども芯の強さを奥に秘めたコカリナの音、そして、やさしく繊細なギターの色音が、夜へと移り行く村川の空へ響きわたっていきます。みな耳をそばだてて聴き入っていました。そして、下草の中からは虫の音が・・・コカリナと寄り添うように聞こえていました。あたりには灯籠がまたたき、この演奏を一緒に楽しんでいるかのようでした。

しかし！7時半を過ぎた頃、突然の大雨。どしゃぶりです。ほとんどの方が急ぎ足で帰路につき、演奏者の鈴木さん（コカリナ）、宮内さん（ギター）はやっとのことでそれぞれ母屋と新館に避難。なんと、そこでも演奏を続けてくださったのです。8時過ぎにはやみそうもない空に降参し、残念ながら早仕舞いとしました。



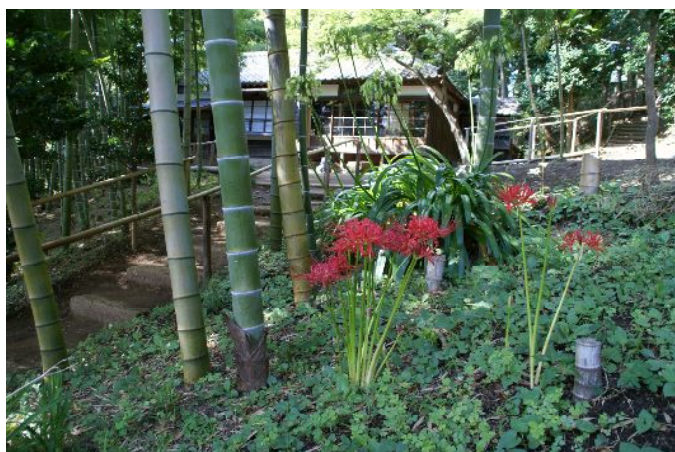
△矢野正男氏撮影



△矢野正男氏撮影

2日目は、何の心配もいらぬお天気で、準備も心軽く始めました。が、昨日の雨で蝋燭の芯がぬれたまま乾いておらず、なかなか灯が付きません。6時になっても、やっと半分くらい。それでもみなさんのお力をお借りして、なんとか邸内中が光に彩られ一安心。そうこうしているうちに、一絃琴という1本の絃だけの琴の演奏が始まりました。演奏は清虚洞一絃琴のみなさんです。美しい和装の方々4人による演奏。庭側からはみなさん食い入るように母屋のすぐそばで、演奏を目と耳と両方で楽しんでおられました。幽玄な一絃琴の音色と和服による演奏は、村川の母屋にはぴったりでした。

2回目の演奏が終わり、8時半ごろになると人影もまばらに。灯籠の光だけがあたりを静かに照らし、庭の片隅では曼珠沙華が一株、来年を約束するようにひっそりと咲いているだけとなりました。



△矢野正男氏撮影

<実施データ>

イベント名 竹灯籠の夕べ

日時：平成21年9月12日（土）午後6時から午後8時まで、9月13日（日）午後6時から午後9時まで

場所：旧村川別荘

来場者数：1日目404人、2日目980人、合計1384人

スタッフ：職員5人 ガイド9人

演奏：コカリナ：鈴木鈴子さん、ギター：宮内俊郎さん

一絃琴：清虚洞一絃琴のみなさん

～ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました～



△矢野正男氏撮影

竹灯籠の立役者たち・・・

竹灯籠の夕べをともに盛り上げてくれた、別荘内の役者たちを紹介します。

ひとつは・・・秋のお月見に旧村川別荘を訪れてくれたうさぎたち。

また、さりげなく飾られた秋のやさしい草花。



そしていまひとつは、秋の季節感いっぱい掛軸。

灯籠のあかりとともに、雰囲気作りに一役も二役もかってくれました。



旧村川別荘だより



平成 21 年 10 月 7 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました

織田さんより10月および11月のシフトの確認が行われました。数件の変更をもって承認されました。ご確認ください。

なお、11月の月例会は、11月10日(火)に市外研修を松戸で行いますが、このときに兼ねて開催しますので、1日は無しとなります。ご注意ください!

なつかし道具展 10月21日から開催!(前半)

10月21日(水)から11月30日(月)までなつかし道具展を開催します。それにさきだって展示する道具たちを御紹介させていただきます。

～プロローグ～道具を自由自在に扱えることは、ヒトのヒトたる所以である、とされます。道具は様々な生活の場面で、手に代わる手段として使用されました。このため、道具は自然に使いやすくデザインされるようになります。大正時代に我孫子に住んだ文人である柳宗悦は「用の美」という言葉を用い「職人が無心で作り、日々使う道具にこそ美がある」ことを説きました。しかし、最近では生活の中で手作業のしめる割合が低下し、日々使う道具の種類も減ってきています。今回の「なつかし道具展」では我孫子市民の方々から寄贈いただいた「なつかしの道具たち」を、我孫子市指定文化財である旧村川別荘に並べてみたいと思います。大正時代の建造物の中でながめる「用の美」はまた格別と思います。

★糸繰り器(座繰り)

我孫子付近の農家では特に明治以降、「富国強兵」、「殖産興業」の流れを受け、現金収入を得るために蚕を飼って生糸を作ることが増え



ていきます。糸繰り器は農家の縁側などに座ってハンドルを回し、生糸を均等に枠に撒きつけるものです。木製の歯車やカムによって動力を伝える仕組みと造形美には感嘆すら覚えます。後に足踏み座繰り器が普及すると手回しの座繰りは廃れていきました。

★うちわ

夏の風物詩、うちわ。今回展示するのは市内の商店が暑



中見舞いなどでお得意様に配った「なつかしの映画スタア」が描かれたものです。皆さんは誰が誰だか?判別付きますでしょうか?左から八千草薫、

鶴田浩二、美空ひばりです!



★代用湯たんぽ

太平洋戦争が激化すると金属資源は軍事最優先で使用され、一般家庭用品には回らなくなります。代用湯たんぽはブリキの代わりに焼き物で作られたものです。他にも代用品はたくさんありましたが壊れてしまうため不評でした。しかしこの代用湯たんぽは肌あたりが優しく、戦後も本物をしのぐ需要があったといえます。というあたりで続きは次回へ。

連絡・質疑・意見交換

●市民活動フェア2010について(矢野さん)

企画シートなど添付の通り提出しました。ご確認ください。ご意見、提案などありましたら、プロジェクトメンバーまで!

今回は、ツアーを1日あたり2回行いたいと考えています。ガイドクラブさんとの連携についても、これから相談していく予定です。もし、村川ガイドの中でも実力のある

方々がたくさんいるので、ガイドクラブに頼むのではなく、独自完結型でというご意見があれば、そういった方向もありうるかと思えます。

- ・私達だけでやってもいいんじゃないですかね？ 周辺ガイドも十分できる方がいらっしゃいます。
- ・イベント趣旨には、団体同士の交流や連携という側面もあるのです。
- ・ガイドクラブとの連携はしたほうがよいのではないかと思いますね。よろしければ私はガイドクラブのメンバーでもあるので、その日4回分の担当を出せるように相談しますよ。
- ・連携のことは話しておきますので、詳細は直接相談ということでお願いいたします。

●竹灯籠の夕べについて

今年は初めて2日間連続の開催。特別に灯籠の特別号として村川だよりを発行しました。本日お手元に配らせていただきました。様子がわかるかと思えますのでどうぞ御覧ください。

大盛況で、2日間で1400人のお客様をお迎えできました！御協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

一木会の岩崎さんが灯籠の夕べの素敵なショート番組(5分ほど)を作ってくださいました。貸し出しますのでお声かけください。

●観光ボランティアガイド連絡協議会について

- ・10月15日(木)のベイ・東葛エリアの交流会について、資料をお配りしています。お昼までの部では、全員が参加対象なので、積極的にご参加を！ご興味をお持ちの方、資料がほしいという方、お申し込みされたいという方は、文化・スポーツ課までご連絡ください。

●第3回のメンバー募集について

- ・11月に第3回のガイド募集を行いたいと思っています。心当たりの方などお声かけください。
- ・毎月の月例会で話される研修がよい。日立の歴史



だとか、我孫子カンツリー倶楽部、生糸工場の話など、とても勉強になります。ぜひ、我孫子市全域に関わる

部分でこれからもとりあげてほしい！これが充実してこそ、参加の意義もでてくると考えています。

- ・毎回新しい知識を取り入れることができ、ガイドにも有効です。これを募集の案内では強調したらどうでしょうか。

●景観を育てる会の秋のイベントについて(吉澤さん、梅津さん)

- ・10月10日に景観シンポジウムがあります。
- ・11月7日に景観散歩があり、石岡に行きます。どうぞご参加希望の方はご連絡ください。
- ・11月28日は日立総合経営研修所の秋の庭園公開です。29日が予備日になります。
- ・景観の歴史部会の歴史散策を開催します。ポスター、チラシを村川にも置いておきますので、ご興味のおありの方はどうぞ。(ルート：我孫子駅から北柏、根戸城、金塚古墳、東陽寺など)

●～国登録有形文化財である村川家を訪れる～

- ・村川夏子さんのご好意により夢が実現します。資料の通り10



月27日に村川家を訪問させていただけるということになりました(^ ^)

- ・その折に周辺の史跡、できれば細川家ゆかりのものなども含めて、めぐっていきたいと考えています。OB、OGの方、ガイド以外のボランティアの方ももちろん、奮ってご参加ください。
- ・10月20日までに欠出のご連絡を！

9月の来荘者数

平成21年9月は1672人でした！
 ちなみに平成20年9月： 978人
 平成19年9月： 978人
 平成18年9月： 126人

次回の月例会は・・・

平成21年11月10日(火) 午前9時半から松戸市戸定邸にて月例会を行います。ぜひご参加ください。OB、OGの方々もぜひどうぞ(^ ^)

旧村川別荘だより



平成 21 年 11 月 20 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

今回の月例会は、11月15日(火)に松戸市戸定歴史館・戸定邸・千葉大園芸学部での研修会と兼ねて行われました。研修会の最後に、シフトの調整を行いました。研修会の模様は次号にお知らせいたします。

村川家住宅へ伺わせていただきました(^ ^)

去る10月28日(火)に、東京都文京区の村川家住宅(国の有形登録文化財)へ、村川夏子さんの御好意により伺わせていただくことができました。その様子をご紹介します。



1. 江戸川橋駅に集合
10分前には全員が集まりました。



2. 鳩山会館
鳩山御殿です。
いたるところに“友愛”の白鳩が・・・。



サンルーム。ゴージャス!
庭にはバラが咲き、鳩山一郎・薫氏の銅像も。



廊下脇の展示ケースも雰囲気があります。

3. 和敬塾

村川家が仕えた細川家のあったところ。旧細川護立邸。昭和11年建築、堂々のチューダー様式。



4. 永青文庫

この写真の方が細川護立公。永青文庫は細川家の家政所でした。志賀直哉らと学習院では同級生だったこともあり、白樺派の擁護者として知られ交流を示す写真も展示されています。



5. 村川家住宅



今日の大本命村川家住宅。正門です。

門前で夏子さんが説明をしてくれました。



門の中も趣があります。

玄関には堅太郎氏の好きな額が・・・『清澄』。



村川本宅の日の当たる縁側でお昼。贅沢な時間・・・

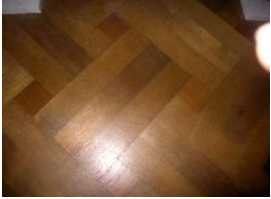


客室には建築時などの貴重な資料が展示されていました。





芝生を貼った洋館書庫にあわせた洋風の庭（堅固）から、京風のコケ庭への返信を遂げた現在の庭、堅太郎の作庭です。



この書斎の寄木の床は、我孫子の別荘とお揃い。我孫子を建てたあとにこの書斎を作ったとのこと。



これは堅太郎氏愛用だった書斎机。



6. 雑司が谷宣教師館
白塗りに鮮やかなグリーン縁取りをしたモダンな外観。



この時代の特徴的な窓。あげおろしするのに、分銅が紐で吊り下げられ、壁内に入っているという窓。



7. 護国寺
最後に村川家の菩提寺でもある護国寺に参拝。ここで解散です。充実した一日となりました。

なつかし道具展 11月30日まで開催！

開催中のなつかし道具展は、11月30日（月）までです。後半部分の道具たちを御紹介します。

★ラジオ

ラジオは戦前・戦後にわたって国民の娯楽として広く普及していました。早慶戦、落語、玉音放送、尋ね人、様々な情報がラジオから伝えられました。今回展示するものは真空管式で三洋電機製のもの。一部プラスチックが使用されていることから、昭和30年代のものと考えられます。



★うなぎ鎌

手賀沼は江戸時代以来「クロ」と呼ばれる天然ウナギの名産地として知られていました。ウナギ漁は

通常、巢穴にミミズを刺した針を差し込む方法、「うけ」と呼ばれる竹でできたわなを沈めておく方法、などがありますが、ウナギが豊富な手賀沼では冬場に越冬しているウナギを船の上からうなぎ鎌で引っ掛けあげる方法もとられていました。手賀沼の冬の風物詩ともいえるものでした。

★★展示はあと少しです。どうぞよろしくお願いたします。



12月の研修会について

次の日程で研修会を予定しています。この盛りだくさんですが、なかなか普段聞くことのできない専門家や経験豊富な歴史系ガイド団体さんのお話しをお聞きします。どうぞ奮ってご参加ください！

①12月 8日（火） 9:00～12:30（兼：月例会）

②12月 15日（火） 9:30～12:30

●どなたでも、どちらかだけでもOKです（^^）
出欠を11月30日（月）までに、文化・スポーツ課 04-7185-1583 までお知らせください。

新しい仲間を募集中です♪

現在、わたしたちの新しい仲間を募集しています。ポスターと宣伝カードを置いておきますので、どうぞお知り合いの方などにお声かけください。

新しいメンバーの方には、12月の研修会には可能な限り参加していただき、1月の月例会で正式にご紹介し、1月のシフトには研修期間として皆さんと一緒にシフトに入っていただき、2月からは独り立ち・・・というようにできたらと考えております。どうぞ温かな歓迎を！

10月の来荘者数

平成21年10月は、517人でした。

ちなみに平成20年10月： 752人

平成19年10月： 333人

平成18年10月： 223人

次回の月例会は・・・

平成21年12月8日（火）午前9時から研修会とかねて松戸市女性センターゆうまつどにて月例会を行います。研修会が9時半からですので、その前の30分間でシフトの調整などを行う予定です。

旧村川別荘だより



平成21年12月16日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。



今回の月例会は、12月8日(火)に松戸市女性センターゆうまつでの研修会とかねて行われました。研修会の前に、シフトの調整を行いました。

戸定邸研修会が行われました。

去る11月10日に、松戸市戸定歴史館及び松戸シティガイドさんの御協力をいただき、11月の月例会兼ガイド見学の研修を行いました。

前号でお知らせするスペースがなかったので、今号にて内容のご紹介をいたします。



- 戸定邸・戸定歴史館・千葉大園芸学部
- ・松戸シティガイドさん、戸定歴史館学芸員の斉藤さんにご案内いただきました。
- ・菊花展が同時に開催されていましたが、見事な菊と建物とがとても似合って、しっとりとした趣を楽しむことができました。
- ・松戸シティガイドさんの流暢なガイドにも、大きな知識の財産をもらったひとときでした(^^)



ちょうど天皇皇后両陛下がお越しになっ



た後ということもあり、見所であるフランス式庭園も鮮やかに花が咲き乱れていました。



●交流会

- ・千葉大園芸学部の学食にて昼食をとり、松戸シティガイドさん10名ほど、旧村川別荘市民ガイドは14名ほどで交流会を持ちました。



- ・一人ずつ自己紹介と、本日の感想などについて話しました。



- ・松戸シティガイドさんからは、前回村川にきてくださったときの歴史的空間としてすばらしさや我孫子市の文人の集まった歴史に対しての憧憬の思い、村川ガイドとの交流の歓迎などについて、お話がありました。

- ・旧村川別荘市民ガイドからは、戸定邸のすばらしさや、戸定の歴史の奥深さ、ガイドさんたちの活動への敬服の気持ち、これからの自分たちの活動のための勉強になったなどのことが話されました。



もみじのコンサート、開かれました。

11月29日、初冬の村川で、もみじのコンサートが開かれました。念願であったクラシックギターによるコンサートです。

今年の村川は、文錦の見事な紅葉・・・赤、黄色、橙色、金色・・・本当に素敵な景色





となりました。
その木の葉舞い散るなかで、ギタリスト谷川卓生氏と、彼の生徒さんたちによるギターアンサンブル アルマ・デ・ギターラ（アルマというのはイタリア語で魂という意味）のみなさんに素敵な演奏を聞かせていただきました。

紅葉は美しかったです、とても寒い一日となり、かじかみそうな指を温めながらの演奏でした。ありがとうございました！

12月8日に研修を行いました。

12月8日（火）9:30から、千葉県観光協会によるスキルアップ研修が行われました。この日は、松戸シティガイドさんとの合同研修。旧村川別荘市民ガイドからは12名参加。講師の先生はキモトヒロミ氏。概要を御紹介します。

「ガイドには7つの力が必要。それは、①第一印象力②会話力③説明力④気配り力⑤発見力⑥ユーモア力⑦臨機応変力です。特に、第一印象力の決め手は、最初の挨拶と笑顔！そして、挨拶は自分から！表情は豊かに明るく笑顔で！

これを心がけましょう。身振り手振り、お辞儀、パンフレットを渡すなどの諸動作は、丁寧にするととてもよい感じを相手に与えます。二つ以上の動作は同時に行わず一つ一つ行う。動作のポイントになるところでいったん停止するときれいなけじめのある動きとなります。それから、相手の目を見て話をするのが大事。さらに相手の話を聴くことがさらに大事。ガイドさんという話す側とではありますが、本当の名ガイドはお客様の話を聴き、その方がどんなことを知りたいのか、あるいは、自分の考えを聞いてほしいのか、歴史的なことを勉強したいのか、景色を見に着ただけなのか・・・こういうことを嗅ぎ分けて、その方に一番必要なことをしてさし

あげる。これができたらプロです！当然、ガイドに必要な知識などは予め頭に叩き込んでおく！頭の中に全部が入っていて



こそ、余裕のある対応ができ、お客様への気配りも自然にできるようにもなります。ぜひ、日本一のガイドさんになれるようがんばってください！」

12月15日（火）9:30から、旧村川別荘にて第2回の研修が行われました。出席者15名、講師の先生は辻井高明氏。

「鎌倉では、年間1800万人の観光客が訪れます。私たちは平成3年に設立されたガイド団体ですが、それまではそれほどの観光都市でありながら専門のガイド組織はありませんでした。大勢のお客様をお迎えするに当たり設立18年になる私たちも日々悩みながら活動しています。お互い知恵を貸しあいましょう！」活動の紹介のあと、みんなでよいガイドになるにはというテーマで意見交換を行いました。ガイドとしての基本的な知識や話し方、マナーは大切、ニーズをいかに捉え的確に対応することが重要、ガイドをすることに愛情のあることがお客様にも伝わる、ガイドをする側も楽しんでガイドをするなど活発な討議となりました。ご参加、ありがとうございました。

新しい仲間募集について

11月16日から新しい仲間を募集しています。現在、10名の応募者があり、オリエンテーションを行ったところです。

新しいメンバーの方には、12月の研修（8日、15日）には可能な限り参加していただき、1月の月例会で正式にご紹介、1月は研修期間、体験期間ということでペアでシフトに入っていただき、2月からは独り立ち・・・という予定です。よろしくお願いたします。どうぞ温かな歓迎を！

11月の来荘者数

平成21年11月は2,767人でした。（駅からハイキング参加者2000名を含んでいます。）

ちなみに平成20年11月： 712人

平成19年11月： 521人

次回の月例会は・・・

平成22年1月6日（水）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。あたたかい格好でどうぞ（^^）



旧村川別荘だより



平成 22 年 2 月 19 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

年が明けて初めてののおたよりとなりました。お休みにしてしまい申し訳ありませんでした。改めまして、今年も一年どうぞよろしくお願いいたします。

2月の月例会もいつもどおり行われ、シフトの調整を行いました。新たな方が11名増加となり、にぎやかな月例会となりました。



第4回杉村楚人冠展「楚人冠と景観保護活動」

- 1月16日～29日に開催された「楚人冠と景観保護活動」について概要をお話します。
- ・杉村楚人冠は大正から昭和はじめに我孫子で暮らした国際的ジャーナリストです。同じ和歌山出身の博物学者 南方熊楠とも若い頃から親交を結んでいました。熊楠は明治末期の神社合祀に反対し（共同体の解体、社有林伐採による自然環境の破壊を危惧した）、楚人冠もこの動きを新聞によって側面から支援しました。メディアの力が世論を動かすという、この時の体験が後の手賀沼埋め立て反対にも活かされたといえるでしょう。
- ・楚人冠が我孫子にやってきた大正時代（別荘族としては村川堅固よりやや早い）の我孫子には白樺派を含めて様々な東京人が別荘を構え、美しい手賀沼の眺望を楽しんでいました。
- ・ところが、大正から昭和初期の米不足からくる飢饉に対して、政府は国営干拓事業を進める方針をもち、手賀沼もその有力な対象地となりました。農

業者の多い地元では歓迎する声が強かったが、漁業者や別荘族は反対の意志を持っていました。

- ・この状況を受け、楚人冠は嘉納治五郎、村川堅固、吉田甚左衛門（柏市花野井）らとはかり「同志の力を合わせて手賀沼をできるだけそのままの姿で残し、交通・遊覧・住居の便に供する」ことを趣旨とする「手賀沼保勝会」を結成し手賀沼埋め立て反対を訴えていくこととなりました。その結果、養魚場の誘致（昭和2）、我孫子ゴルフ倶楽部の開場（昭和5）など手賀沼を活かしたまちづくりが模索されるようになったのです。
- ・保勝会の活動は残念ながら戦争の陰とともに終息しますが、地元の人々が「手賀沼風致会」を作り、手賀沼公園付近にアヤメを植えて名所づくりをしようとする運動に引き継がれます。残念ながら、戦後の食糧難に伴って手賀沼の東半分が干拓されてしまいますが、手賀沼保勝会が撒いた「景観保護というタネ」は市民に受け継がれ、現在に至っているのです。



▲風致会の写真

杉村楚人冠資料から発見された針文字書簡！

- 現在資料整理が進められている杉村楚人冠邸から新たな資料が発見されました。一見何の変哲もない白紙の和紙ですが、

明かりに透かしてみると、次のような文章が・・・。

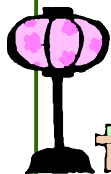
「京橋区瀧山町/朝日新聞社/杉村縦横様/管野須賀子/爆弾事件ニテ私外三名近日死刑ノ宣告ヲ受クベシ御精探ヲ乞フ/尚幸徳ノ為ニ弁ゴ土ノ御世話ヲ切ニ願フ/六月九日/彼ハ何ニモ知ラヌノデス」これは大逆事件（明治天皇爆殺を計画したとして明治 43（1910）年に社会主義者などが大量検挙された事件）によって処刑された管野須賀子が幸徳秋水（社会主義者、ジャーナリスト。管野とともに処刑）の無実を訴えて獄中から杉村楚人冠にあてた秘密文書です。管野、幸徳ともに面識のある、朝日新聞の杉村に訴えることにより、危機を打開しようとしたのでしょう。生前、その内容と影響の大きさから楚人冠はこの書簡を封印せざるを得ませんでした。大森から我孫子に引っ越しする際にも処分せず、仏教関係の書簡とともに大切に保管していました。奇しくも大逆事件から百年、明治大正期の思想や文学に大きな影響を与えたこの事件の真相に迫る資料が村川とも交流の深い杉村楚人冠の資料から発見されたことは非常に意義深いと思います。

この針文字書簡は近日皆さんのお目かけられると思います。

連絡・質疑・意見交換

●市民活動フェアについて

- ・資料に沿って、企画内容の確認をしました。
- ・資料 2 枚目の当日の役割分担について話し合い、ある程度決まりました。（矢野さん、瀬戸さん、西村さん、板倉さん、大井さん、川端さん、小沢さん、青木さん、日暮さん、日比野さん、黒田さん、山田さんが現在御協力を申し出てくださっています（^^）ありがとうございます。
- ・インクカートリッジの回収をしました。7日までは名札の入っている押し入れに回収袋を入れておきますので、後日持参される方はそこに入れてください。
- ・市民活動フェアの参加費について、8月の月例会で確認されたように、今回は有志が出したい金額を募金的にだすということで、押し入れに募金箱を入れておきますので、ご協力いただける方はよろしくお願いたします。参加費

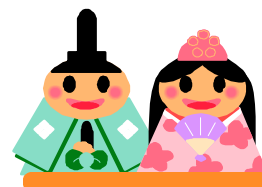


は1団体で500円になります。お金の管理は瀬戸さんが担ってくださるとのこととなりました。

- ・ちらしなどの準備については、旧村川別荘に見本と何をすればよいか書いておいて、ガイドに入ったときにそれを行うこととなりました。みなさま、どうぞご協力をお願いいたします。

●ひなのまつりについて

- ・ひなのまつりが2月24日から行われます。



- ・この準備を2月22日午前9時から行いますので、可能な方はぜひご参加ください→川端さん、大井さん、板倉さん、西村さん、日暮さん、瀬戸さんがお申し出下さいました。

●そのほか

- ・もしできれば検討していただきたいことがある。研修などで市外に出掛ける時には交通費程度の支援を市からしてもらえないだろうか。あるいは、福祉バスを使っただけの研修であればよいのだが。
- ・ここで活動すること自体はボランティアという理解がわかるが、旧村川別荘まで来るための費用は出していただけないものだろうか。
- ・そういった問題は、昨年夏に話しあった団体としてどういう形態をとっていくかということにもよる問題である。考える形態の種類をすべて出して提案し議論をするといったが、まだできていないので進めていきたい。

12月の来荘者数

平成21年12月は、238人でした。
 ちなみに平成20年12月： 220人
 平成19年12月： 158人

1月の来荘者数

平成22年1月は、193人でした。
 ちなみに平成21年1月： 238人
 平成20年1月： 185人

次回の月例会は・・・

平成22年3月1日（月）午前9時半から
 旧村川別荘新館にて月例会を行います。
 古墳のお話をしたいと思います。
 お楽しみに！



旧村川別荘だより



平成 22 年 3 月 3 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。



3 月の月例会が行われました。シフトの調整と市民活動フェアなどに

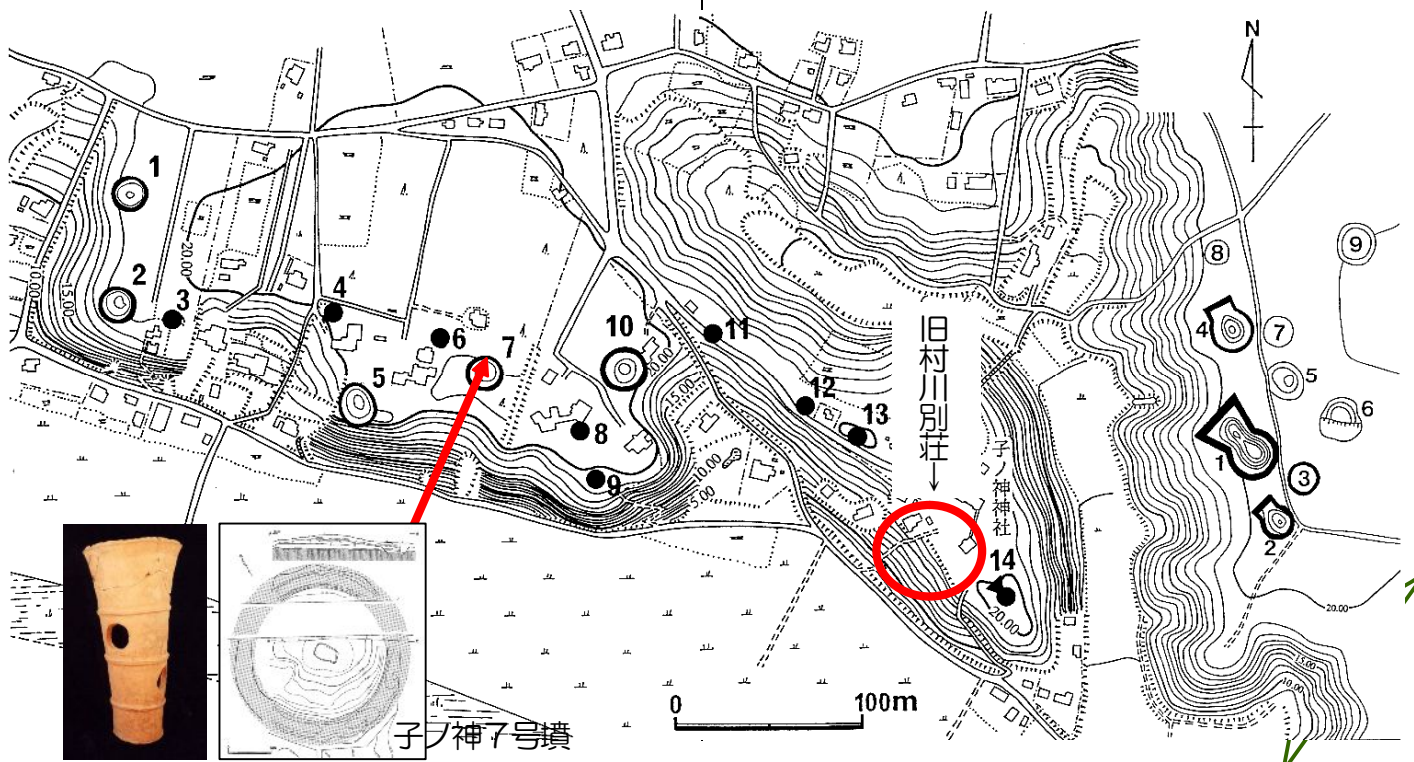
関する意見交換、古墳についての話がなされました。

ガイドの遠藤さんからの提案でひなのまつり開催中はお客様も多く、ガイドが一人だと対応しきれないこともあることから、その期間だけは 2 人体制にしたらどうかとの提案があり、できるかぎりそうしたいということで、みなさまに御協力をお願いしました。次回からは事前にそのように組むようにいたします。今回は、10 日までの間で出来る範囲でそうしようと思います。参加可能な方はご連絡ください。

我孫子の古墳と発掘調査について

古墳は 3 世紀半ばから 7 世紀末頃までに作られた、墳丘と埋葬施設をもった墓のことをさします。権力者が多くの副葬品とともに葬られているため、地域の政治や社会を考える上で重要な情報を私たちに伝えてくれます。おおよそ円墳、前方後円墳、方墳、前方後方墳の 4 種類に分けられますが、このうち前方後円墳は大和政権とのつながりを示すとされます。

我孫子での古墳発掘調査は、昭和 30 年代末から 40 年代初めにかけて東京大学の西嶋定生を中心とした発掘調査が始まります。西嶋は、村川堅太郎の少し後輩の東洋史学者で、戦後に白山分譲地（嘉納後楽農園跡）に移住し、付近の住宅開発によって調査もされずに壊されていく古墳をなんとかしようと思ったのが調査の始まりでした。調査成果は『我孫子古墳群』として結実しますが、代表的なものとして水神山古墳（4 世紀末。千葉県北西部地区



最大の前方後円墳)、金塚古墳(5世紀。豊富な副葬品)、子の神古墳群(6世紀前葉～7世紀。14基からなる)、高野山古墳群(6世紀中葉。人物埴輪出土)の調査があります。このうち、子の神古墳群は旧村川別荘付近に広がる古墳群で、手賀沼を見下ろす台地の縁にあることから別荘のある場所に重なることが多く、4・5号墳は瀧井孝作仮寓跡(小暮氏別荘跡)、8・9号墳は島久別荘跡の所在地です。

西嶋たちの調査の後、我孫子市教育委員会でも宅地造成に伴う発掘調査を進め、根戸船戸古墳群(7世紀。特異なダルマ型古墳)、台畑古墳群(7世紀。横穴式石室)、中峠北1号墳(6世紀中葉。高野山古墳群と同じ職人による埴輪)、前原古墳群(3世紀後半。方墳)などの調査が行われました。

このうち前原古墳群は3月28日にオープンする高野山桃山公園の整備で確認されたもので、それまで最古とされていた水神山古墳を遡る我孫子市最古の古墳であることが判明しました。



水神山古墳から前原古墳付近は古墳時代前期に遡る可能性がある香取神社古墳群や西大久保古墳があり、「我孫子の王家の谷」とも呼べる空間を作っています。現地に立つと沼への眺望が大変良く、古墳の主が見ていた光景が偲ばれます。是非、現地に行ってみてください。

連絡・質疑・意見交換

●市民活動フェアについて(工藤)

- ・資料に沿って、担当の確認をしました。
- ・村川チラシを遅まきながらガイドのみなさんにご

協力をお願いとして設置したところ、もうすでに10枚ずつの束にしたものはすべてなくなっていました。御協力ありがとうございました。

- ・上映予定のDVDについて、事前に見たい、あるいは借りたいという方がいらっしゃいましたら文化・スポーツ課までご連絡ください。
- ・参加希望者がまだ少ないです!!あと一週間ですがPRをよろしく願いいたします。

●ひなのまつり

- ・2月22日には御協力いただきありがとうございました。おかげさまでとてもきれいに飾ることが出来ました。
- ・盛況です!
- ・二人体制のときには、母屋に一人、新館に一人という形でお願いできればと思います。
- ・3月11日9時からおひなさまをしまいます。参加できる方、文化・スポーツ課までご連絡ください。

2月の来荘者数

平成22年2月は、778人でした。(さすがひなのまつり!!) *このたよりは人数訂正後のものです*

ちなみに平成21年2月: 1844人

平成20年2月: 178人

次回の月例会は・・・

平成22年4月1日(木)午前9時半から

旧村川別荘新館にて月例会を行います。

村川の昔について御紹介できればと思っています。



- ☆ 4月1日に現時点での名簿をお配りする予定です。氏名、郵便番号、住所、ご自宅の電話番号を掲載します。変更、その他ありましたらご連絡ください。